

今号の記事

<2・3面>税と社会保障の一体改革は許さない!「一日医師体験」募集!「笑顔つながら認知症ケア」/「生きる力と向きあって」/看護職員大募集!!/クッキング=漬物のごまあえ/診療案内
<4面>身近に考えたいメンタルヘルス

へいわと健康

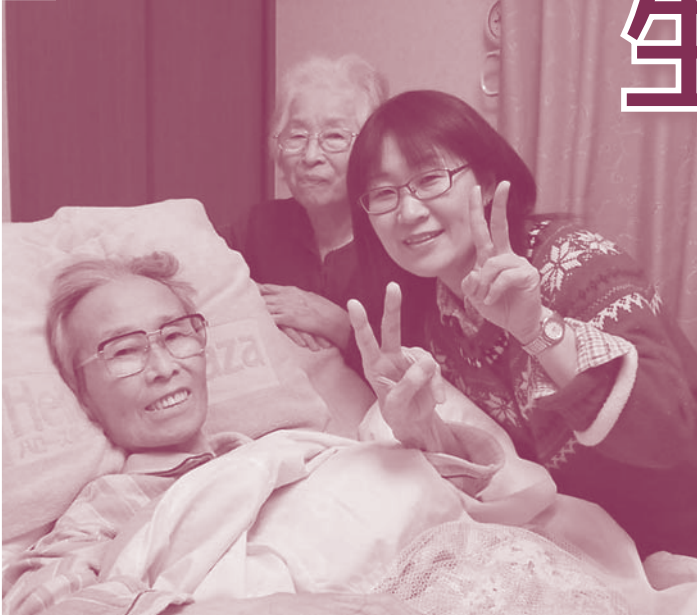
だれでも、いつでもかかれる、安心・安全の医療をめざして

〒631-0818 奈良市西大寺赤田町1-7-1
医療法人平和会吉田病院 法人事務局
発行責任者 常務理事 田中義夫
☎(0742)45-4601(内線216)FAX(0742)45-5085
http://www.heiwakai.or.jp/

地域の医療・介護が連携してささえる地域緩和ケア

最期まで自分らしく 生ききるために

平和会地域緩和ケアセンター
プロジェクト会議 内科医師
加納 麻子



在宅療養を開始して6ヶ月のころのTさん。「不安でしたが、帰ってきて本当によかったです。私みたいな患者さんに大丈夫やって教えてあげたいです」と話しておられました

それほど遠くない昔、がんになってからも告知されず、患者さんを抜きにした話し合いの中で治療方針が決定されていきました。しかし、手術や抗がん剤、放射線治療、緩和ケアなどがん診療は進歩し、がんとのつき合い方も様々となりました。それに伴い、患者さん自身が、病状や治療を理解し、治療方針に自分の意思を反映させることが重要になってきています。患者さん本人が、がん診療の主人公になる時代です。患者さんの希望が医療を動かしてゆくの

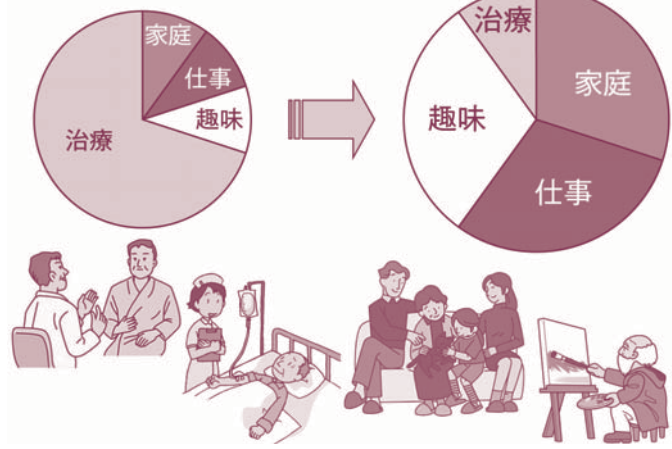


がんになっても自分らしい生活は可能です

地域のそれぞれの医療機関の役割を知り、治療の段階に応じて、生活にあった療養の形をみつけましょう。

治療中心の生活から

自分らしい生活へ



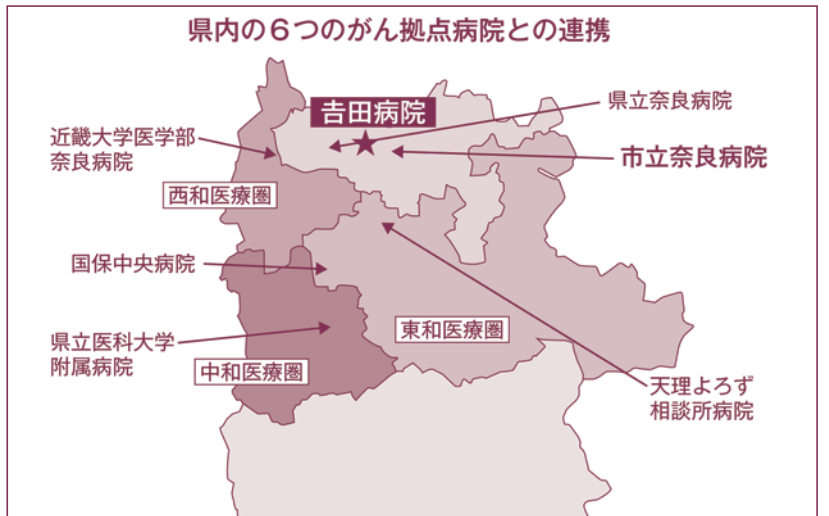
「本当は家に帰りたい」の言葉に

Tさん(80代・男性)のケースをご紹介します。その結果、退院後

と生活の質を高めることができるのです。がん診療は「がん拠点病院※」と「連携医療機関」によって成り立っています。がん拠点病院は、手術や抗がん剤治療、放射線治療などにより「専門治療医」としての役割を担います。一方、連携医療機関は、地域に密着した中小病院や診療所が、総合的な健康管理、がん検診、在宅医療などを提供し「かかりつけ医」としての役割を担います。

患者さんの希望を中心にしながら、がん疾患であるが、がん以外の疾患であるが、入院が必要な時は病院で「家では訪問診療」と、住み慣れた地域での療養の実現に取り組んでいます。緩和ケアとは、患者さんが最期まで病気と共によりよく生きるこの可能性を追求する医療、つまり、「生ききるための医療」です。現在、私たち平和会は、地域緩和ケアの充実・発展をめざし、「地域緩和ケアセンター(仮称)」の計画を進めています。

かけがえのない「私の人生」



財務省は昨年末時点の国の借金総額が958兆円に達し過去最大を更新したと発表した。前回発表から3ヶ月で4兆2200億円増え、今年度末には1000兆円を突破する見込みだと言